



人命を守った勇気ある対応

神川町在住の小暮健司さん(写真中央)が、12月16日(火)に上里町内で徘徊していた高齢女性を発見し声をかけ安全を確保したうえで警察へ引き渡すなど適切な対応をとったことにより、本庄警察署から感謝状が贈呈されました。

日ごろから地域の様子に目を配り、勇気をもって行動されたことが大切な人命の保護につながりました。



乾燥期に向けた防犯・防火対策

2月14日(土)神泉地区で防犯・防火パトロールを実施しました。

地域防犯推進委員、消防団(6・7分団)、児玉警察署員、広域消防本部神川分署職員が参加し、住居を一軒一軒回り火災予防や火災報知器の設置について呼びかけました。

3月も引き続き空気が乾燥する季節です。火の取り扱いには十分注意しましょう。



100歳誕生日おめでとうございます

12月16日(火)、貫井の栗原志げさん(大正14年生)が満100歳の誕生日を迎えられ、町長から祝状と祝金が贈られました。

志げさんの元気の秘訣は「運動をすること」で、毎日の楽しみはご飯を食べることです。みんなと一緒にご飯を食べることが楽しみだそうです。

これからもお元気でさらなる長寿をお祈りしています。



地域のにぎわい創出へ新たな連携

2月13日(金)株式会社ONDOホールディングスと地域活性化に関する包括連携協定を締結しました。同社はおふるCafé白寿の湯を運営するグループ企業で、町とも深い関わりがあります。この協定により町内の観光資源や民間事業者との包括的な連携や特産品を使用した商品開発、町の魅力創出などさらなるにぎわいの創出とともに目指します。



かみかわの歴史・発見!

第52回 地域で守り伝えられてきた虚空蔵さま

問合せ 生涯学習課 文化財担当 ☎0274-52-2586 FAX0274-52-2586

新里地内には光明寺から万日堂へと続く道の両側に細長い土地の区切りが続き、金鑽川や水路に囲まれている集落があります。その中には「上宿」「中宿」「下宿」という地名が今も残っています。



虚空蔵さまのお札

中宿には、宗派に関係なく集落全体で守りまつられている「虚空蔵さま」がいます。光明寺の境内中央に立つお堂の中には、蓮華座に座る虚空蔵菩薩が納められています。像の大きさは高さ約22cm、幅約8cmです。江戸時代後期の文化12年(1815)に作られた厨子の中に納められています。この厨子は像の大きさに合わせて作られていることから、その頃にはすでに地域の人々にまつられていたことが分かります。

虚空蔵とは広大な空間のように計り知れない徳を持つという意味で、虚空蔵菩薩は無限の徳と知恵により人々の願い(学業や健康成就、商売繁盛など)を叶えるとされている菩薩です。

中宿にある虚空蔵さまが、いつの時代にどのような願いを込めてまつられたものかははっきりと分かっていません。古くから丑寅生まれの守り本尊として集落や他の集落の人々から信仰されてきました。地元の方は、養蚕が盛んな時代に集落の人々が豊かな暮らしを願ったのが起源ではないかと話しています。



虚空蔵さまが納められている厨子

お堂も長く大切に守られ改修工事が重ねられてきました。その工事中に、虚空蔵さまの祭りに関する文書が発見されました。文書は明治から昭和にかけてのもので、最も古いものは明治20年(1887年)にさかのぼります。これらの文書から虚空蔵さまがまつられた起源が分かるものは見つかっていません。しかし、100年以上も前の文書が今日まで残されていること自体が、地域の人々が信仰を大切に守り続けてきた証といえるでしょう。



改装中のお堂



発見された文書(一部)

中宿では毎年3月13日に虚空蔵さまのお祭りである縁日が今も変わらず続いています。縁日の日は決まっていて、曜日によって動くことはありません。これは13日の夜に虚空蔵菩薩の前で読経などの礼拝をしていたことが由来であると考えられています。かつては縁日の規模も大きく、光明寺から万日堂へ続く道からお堂へ向かう細い参道の両側にのぼりや旗が立ち、露店が軒を連ねました。さらに福引や演芸大会が開催され、多くの参拝者で集落は大変な賑わいを見せていたといえます。現在は社会状況や人口減少の影響もあり以前より落ち着いたものとなりましたが、地域の大切な行事として守られています。

今年も縁日は3月13日(金)に開かれます。のぼり旗の奉納を企画し、地域の方々の協力で約50本以上が奉納されています。奉納された旗は、光明寺から万日堂に至る道路に立ち並ぶ予定です。ご興味がありましたら訪ねてみてはいかがでしょうか。